

マルチ栽培はない。春作においては、植付後のマルチ被覆時期と霜害や生育収量との関係、並びに施肥法・施肥量が検討課題とされている。

ワ) サトイモ

マルチ栽培面積の割合は44%であって、早出栽培を中心にフィルム資材が主として普及している。ムラサキカタバミなどの宿根草繁茂が問題となっているところ（鹿児島県）がある。

以上に述べてきたように現在主要野菜のマルチ栽培面積はおよそ50%となっており、そのうちプラスチック系フィルムが80%を占めている。プラスチック系マルチ資材の出現によるマルチ

栽培の普及・野菜生産への貢献度は多大のものがあるといえよう。

しかしながら現今のマルチ資材で十分な目的がかなえられているとは言えず、前述のいくつかの問題点が指摘され、新資材開発への期待は大きい。

一方、現行のポリフィルム利用マルチで最大のネックとなる雑草防除については、有望な除草剤が一刻も早く登録され、実用化されることが切望されており、メーカーはもとより登録審査機関各位のいっそうの善処方をお願いしたい。同時に新マルチ資材の開発とその利用法の研究には、今後とも積極的に取り組む必要があろう。

昭和52年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和52年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績検討会は、昭和52年12月13日、日本都市センター（東京都千代田区平河町）において開催した。ここにその結果の概要を報告する。

本年度供試された点数は、水稻関係は作用性が5剤、適用性は8剤の延べ点数36点、畑作関係は適用性試験9剤延べ点数25点の試験が実施

された。又、マルチ関係では2種類のマルチフィルムについて試験され、1種については栽培法とのからみで、基本的な性質について試験され、その結果について報告検討が行われた。

試験成績をもとに行われた審査判定結果、使用基準は次表のとおりである。

昭和52年度 水稻・畑作関係生育調節剤審査判定および使用基準

I. 水 稻 関 係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) タチガレン 粉	・ヒドロキシイソキサ ゾール 4%	・低温時での健 苗育成、発根 力の向上。	継		1) 散布方法の検討 中苗、成苗を対象とし て、低薬量を数回にわた って散布。 (高薬量では薬害発現の 可能性)

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) タチガレン粉 (つづき)		・苗素質の向上。 (昭47年度)	実	箱育苗 箱当たり成分量0.32gま での使用量で、播種前床 土に混入する。 適用地域：全域。	
2) カルパー 粉G	・CaO ₂ 35%	・灌水直播によ る発芽、苗立 の安定化。	実・継	・粉衣量：浸漬糶100gに 対し、100gを粉衣 して播種する。 ・適用条件：灌水直播。	1) 低温条件下での粉衣量 の検討。
カルパー 粉	・CaO ₂ 54%以上	・機械播種のため の剤の開発 および播種法 の検討。 (昭50年度)	実・継	・粉衣量：浸漬糶100g に対し、30gを粉衣 して播種する。 ・適用条件：灌水直播。	1) 作業機との関係を更に 検討。
3) NGR-10 粒	・未公開	・健苗育成。 ・本田での活着、 初期生育促進。	継		1) 効果不安定。 2) 剤型、処理方法、処理 時期などについて検討。
4) KC-481 粉	・ニコチン酸アミド 20%	・苗質の向上。 ・活着および初 期生育の促進。	実・継	・稚苗、中苗の苗質向上、 活着促進。 箱当たり5~10g タチガレン処理を併用 する。 適用地域：寒冷地以北。	1) 処理方法、剤型、使用 量の検討。 2) 地域拡大。
		・タチガレン、 ダコニール剤 同時使用によ る葉害軽減作 用。	継		1) 葉害不明確。 2) 効果不安定。
5) DF-199 水和	・メチル-1-(ブチ ルカルバモイル)- 2-ベンズイミダゾ ール カーバメイト 50%	・耐寒性 ・発根、活着性。 (作用性試験)	継?		1) 効果不明。
6) ベンジルアデニ ン 液	・N ⁶ -ベンジルアミノ プリン 3%	・老化防止。 ・活着促進。	実・継	・稚苗、中苗で実用化可 能。 ・1~1.5葉期に10~20 ppm液を50mL/箱 散布する。 ・適用地域：寒冷地以北。	1) 処理量と処理時期の検 討。 2) 地域拡大；暖地。
7) カルパー 粒	・CaO ₂ 54%	・強還元田にお ける活着、初 期生育の促進。 ・増収効果。	実・継	・400g~800g/aを 土中に混和する。	1) 生ワラの施用時期(春、 秋)との関係について検 討。 2) 暖地、温暖地：麦ワラ 施用との関係。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
7) カルパー粒 (つづき)		・稲ワラすき込みによる活着不良防止, 根ぐされ防止. (昭.51年度)	実・継	・400 ~ 800g/aを生わらと一緒にすき込む.	1) 現場の不良環境での諸条件の検討.
8) KG-772 顆類	・未公開	・耐寒性. ・初期生育促進.	継?		1) 効果不明.

II. 畑 作 関 係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) エスレル 液	・2-クロロエチルフ ォスフォニックアシ ッド 10%	(小麦) ・稈の短縮効果 強度効果による 倒伏防止.	実・継	・出穂前5日より200~ 300ppmを10l/a散布 する. ・適用地域: 寒地, 温暖 地.	・葉害について継続検討. ・地域拡大可能性の検討. ・麦類の種類拡大.
2) GCG 液	・2-クロロエチルー トリメチルーアンモ ニウム クロライド 46%	(小麦) ・倒伏防止.	実・継	・6葉期前後(節間伸長 開始頃, 草丈30~40cm) 20ml/aを散布する. ・適用地域: 寒地.	・品質(稈のもろさ), 大 面積圃場での使用法など, 機械化作業との関係につ いて検討.
3) KP-1100 乳	・特殊アニオン型界面 活性剤 25%	(落花生) ・摘花による増 収効果.	実・継	・300倍液20l/aを開 花後30日以後に散布し, 更に10日~2週間後も う一度散布する. ・適用地域: 温暖地以西. ・適用品種: パー ジニア タイプ.	・寒冷地への拡大. ・交雑種についての適用性 の検討. ・効果の確認. 〔摘花効果は認められる が, 必ずしも増収には 至っていない.〕
4) ビーナイン水溶	・N-(ジメチルアミ ノ) -スクシンアミ ド酸 80%	(落花生) ・増収効果.	実・継	・開花後30日頃, 7.5~ 10g/aを10l/a の水 量で散布. ・適用品種: パー ジニア タイプ. ・適用地域: 暖地, 温暖 地東部(過繁茂条件).	・品質について検討.
5) ジクワット 液	・ジクワットプロマイ ド 30%	(小 豆) ・茎葉枯凋によ る収量, 品質 の安定化.	実	・収穫7日前に15~30ml /a を散布する. (注) 1. 刈り取り後の作 業を容易にするた めに散布する. 2. 熟莢歩合3%以 上であれば減収は 大きくない.	
		(馬鈴薯) ・茎葉枯凋効果.	実	・茎葉黄変期(開花始後 30~35日)に30~50ml /a を10l/a の水量で	1) 残留毒性の検討. 〔開花始後30~35日, 2 ~3回処理で検討する.〕

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
5) ジクワット 液 (つづき)				散布。 ・早期種（食用）1 回処理。 ・中，晩種 2～3 回処理。	
6) ベンジルアデニン 液	・N ⁶ -ベンジルアミノ プリン 3%	(小 豆) ・着莢促進効果。	継		・初年目。 ・効果不明確。
7) SSR-39 液		(サトウキビ) ・増糖効果。 ・糖含量の維持。	保留	後日検討。	
8) SSR-40 水溶		(サトウキビ) ・増糖効果。 ・糖含量の維持。	保留	後日検討。	

昭和52年度林業関係生育調節剤・ 非農耕地除草剤委託試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和52年度林業関係生育調節剤・非農耕地除草剤委託試験成績検討会は，昭和53年1月25日，南青山会館（東京）において試験場関係者および委託関係者等約40名参集のもとに開催された。当検討会では，林業関係生育調節剤2 薬剤合

計6点，非農耕地関係除草剤1 薬剤合計2点について，各試験場所担当者の報告，その質疑応答ならびに慎重な検討がなされた。その判定結果は次のとおりである。

昭和52年度 林業関係生育調節剤試験薬剤一覧および判定結果

薬 剤 試 験 {種 類 名} {商 品 名}	委託者名	有効成分および含有率	新継の別 前回判定	担当場所	試験のねらい；処理方法 処理時期；散布薬量	今回 判定	判 定 理 由 または内容
1. エバダント 乳 〔ミドリナール〕	東邦干葉 化学工業	オキシエチレン直鎖脂 肪酸アルコール（C16 ～22）主としてオキシ エチレンドコサノール 10%	継 実・継	福島林試， 茨城林試， 徳島林技セ ンター。 (3)	移植時の蒸散抑制（萎 凋防止）による活着促 進；移植前散布；20倍 液で薬剤が葉の全面に 十分つく程度。 〔対象・緑化木〕	継	樹種をしぼって（特に移植 の困難なもので）再検討。 処理方法（時 期，部位等） の検討。